

目的 女性の塩味覚および酸味覚が、月経周期に対応して変化し、月経周期後半期は、前半期よりも、高濃度の嗜好性を呈することを確認し、すでに報告した。そこで今回は、甘味に対する嗜好性および、塩味、酸味、甘味の閾値に対する識別能力においても、同様の傾向を示すものかどうか、その実態調査を行った。

方法 ①甘味に対する嗜好性については、蔗糖15, 20, 25% のゼリーに対する、7段階評定尺度を用いた採点法により、②閾値識別能力については、食塩0.15%, 酢酸0.007%, 蔗糖0.4% 濃度溶液に対する二点比較法により、官能検査を行った。その結果を月経周期に対応させて、統計処理を行った。

結果 ①の調査結果：男子学生の場合は、個人差は大きいが個々の味覚が安定しているのに対し、女子学生の場合は、月経周期に対応して味覚が変動し、蔗糖濃度20% に対して、1週目と4週目に有意差が認められた。②の調査結果：酸味、甘味に対しては、月経周期後半に識別能力の低下がみられたが、有意差は認められなかった。しかし塩味覚は、月経周期前半より後半に識別能力が低下し、1%の危険率で有意差を示した。反復テスト後の正解率も、前半期は上昇し、後半期は不正解率が上昇した。塩味の閾値識別能力においても、塩味、酸味、甘味の嗜好テストと同じ傾向を示し、月経周期前半期よりも後半期に、識別能力が低下するものと思われる。